

1 取組名称

学生による学生のための学内スポーツ振興—スポーツ・健康関連課題の発掘と解決にむけた学生主導の正課外教育プログラム—

2 取組組織等

大学教育センター（HPS、保健体育科目担当）

3 取組実施代表者名

大学教育センター（HPS） 准教授 西島 壮

4 取組年度期間

2018～2019 年度（2年間）

5 取組の概要

学生時代に運動・スポーツへ積極的に参加する態度・素養を身につけることは、健康的なライフスタイルの構築や、コミュニケーション能力および社会性の向上など、多様な恩恵をもたらすと期待される。しかし残念ながら本学の保健体育科目の受講者数は減少傾向にあり、運動・スポーツや健康に無関心な学生が増加していることが懸念される。

そこで本事業では、「学生主導」をキーワードとし、「学生による学生のための学内スポーツ振興」を目指す。本プロジェクトへの参加学生は、大学教育センター（HPS、保健体育科目担当）が担当する保健体育科目・教養科目・副専攻科目（人間健康科学副専攻コース）の受講生の中から募る。この学生主導で「学内スポーツ振興」を目指す一連の過程は、東京2020オリンピック・パラリンピック開催都市にある公立大学で学ぶ学生であることの自覚を促し、社会との関係性の中で主体的に考え学ぶ機会となる。これは、本学が第三期中期計画で目指す人材（豊かな教養、高度な専門性、社会への対応能力）の育成につながるものと期待される。

プロジェクト1：体育会の活性化プロジェクトを通じた社会人基礎力の育成

プロジェクト1-1：部員増に向けたチームマネジメント力の向上

プロジェクト1-2：各体育会団体のブランディング

プロジェクト1-3：体育会全体のブランディング

プロジェクト2：荒川キャンパスにおけるスポーツ振興企画プロジェクトを通じた総合的問題思考力の育成

プロジェクト2-1：体験型スポーツイベントの実施

プロジェクト2-2：荒川キャンパス学生とスポーツ・運動に関するアンケート調査

6 事後評価の総合評定

3. 4 ※審査会（教育担当副学長及び部局長構成）の審査員が行った5段階評価（5～1）の平均点

7 事後評価に関する審査会での主な意見

- 主体的に考え、他者と協働し、プロジェクトを実行する体験によって、リーダーシップ力や行動力の育成につながった。
- 南大沢キャンパスでは大学スポーツの価値や国内外の情勢などについて学生に主体的に学んでもらう機会を提供し、一方、健康福祉学部の学生が学ぶ荒川キャンパスでは、障がい者スポーツの体験型スポーツイベントを開催して、これらを知る機会を提供した。これらは、本学の学生のスポーツに対する関心を高めるために、十分に寄与したと考えられる。
- 正課外教育の場における教員の関与をどのように位置づけるかという困難な課題が残ったのも事実である。学生の能動性を損なわずに教員が有用な提言を行うための「場」を、どのように相互的に創りあげていくかについて引き続き検討を続けていただきたい。